



社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会
マッドナイトミッドナイト
マッドナイトミッドナイト



ホームページQRコード



QRコード

2025/4/1 No.98

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

創立者の遺志を継いで



理事長 木下 宣世

4月を迎え2025年度の歩みが始まりました。今年のイースターは4月

20日となります。今は受難節の日々を送っていますが、来るイースターにおける復活の主の恵みが皆様方の上に豊かに注がれ、新しい命の力に満たされて新年度の歩みに進み行かれるよう心からお祈り申し上げます。

さて、過ぐる1年をかえりみますと、色々な事が思い浮かびますが、私にとって一番大きな出来事は母木下ドーラの死でありました。

私共夫婦は2018年3月に富津に転居して来ました。それ以来亡くなる11月8日までの6年半余り、短い期間でしたが母の身近なところで過ごしてきました。母の晩年を共に過ごしてきたわけです。

母は強烈な個性の持主でした。性格は複雑で好悪の情がはっきりしていました。ですから決して温厚な人柄でも、欠けの無い人物でもありませんでした。

しかし、諸々のことを踏まえた上で彼女の生涯に思いを至すとそれは神に用い尽くされた人生であったと思います。

26歳の時、親や姉たちのもとを離れ、全く未知の国日本に渡って来ました。そして困難な状況に置かれていた女性たちを助けるために全力を尽くして働きました。それは戦いの多い歩みであったと思います。しかし彼女は妥協しませんでした。神さまの御用であると思ふ道を貫くためでした。それが自分にも他者にも厳しさを課した原因だったのではないかと推察致します。

そのような彼女を地元の方々も、同業者や利用者の皆さんも受け入れて下さいました。そのお陰で彼女は半世紀にわたる福祉の業を全うすることができ、ついに母国に帰ることなく、この地で98歳10ヶ月の生涯を終えたのであります。私はこのような人生を送った母ドーラを尊敬し、その生き様には深く心打たれる思いが致します。

望みの門は木下ドーラの死をもって創立者を失いました。これは決して小さな事ではありません。引退して20年以上が経っていたとは言え、彼女が生きているだけで心のどこかに支えとなるものを感じていました。しかし今となつては、その支えとなるものは完全に取り去られたのです。

創立者亡き後の望みの門は正念場を迎えたこととなります。これからの創立の精神を生き生きと保っていかれるかどうかが鍵となります。理事長の責任は重大です。このためにまず

ます祈りをあつくしなければなりません。またこれは理事長一人ではとても負い切れる問題ではありません。望みの門がこれからも神さまの御心に適う働きをなし、助けを必要としている人々に愛をもって仕える群れとなれるよう全職員の皆さんの理解と協力を心からお願いし、また関係者の皆様のお祈りとお支えを心からお願いする次第です。

法人マスコットキャラ

「キーボウ」誕生秘話

採用定着委員 望みの門新生舎

職業支援員 小倉 貴大

2024年度が始まると同時に、当法人において「採用定着委員会」が発足されました。この委員会は数年前にも活動しており、その名の通り職員の採用と定着について法人内の各部の現場の若手職員が中心となり新しいアイデアを出し合い活動する委員会です。発足直後は委員一同「採用？定着？？」といった状態でしたが、意見を交換する中で



社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会
マスコットキャラクター

「キーボウ」

各施設の現場レベルでのリアルな課題が浮き彫りに……。それに対して「現場職員ならでは」の視点で何ができるか考えた中で、SNSを利用しての施設の魅力の発信や、定着に繋がる為の職員同士の交流の場を作る等のアイデアが出てきました。そんな中、もっと法人のことを外部の人に知ってもらうために、「法人のマスコットキャラクターを作ってみては？」という意見が挙がりました。これが「キーボウ」誕生への第一歩となります。

選考方法としてはご利用者様、職員、それぞれのご家族も含めて、当法人に関わる皆さんに公募という形でイラスト募集を開始し、嬉しいことに65件もの個性豊かな応募が集まりました。選考は全職員の投票↓常務会での最終選考という形で決定としました。どれも法人への愛に溢れた素敵なものばかりで選考は難航しましたが、その中でも一際輝きを放っていたのが、「キーボウ」のイラストでした。その後、原画を基にブラッシュアップ……。そして2024年の法人クリスマスマスカで皆さんにお披露目し、「キーボウ」が産声を上げました。名前の由来は、のぞみ会の「のぞみ」↓「希望（きぼう）」↓「キーボウ」。シルエットはキリスト教の中でも大切な存在である羊がモチーフで、毛はまるい形です。なかりあい、のぞみ会がハートに「愛」を中心とした一つの組織であることを表しています。

委員一同、この「キーボウ」がこれからののぞみ会の発展の希望の架け橋になってくれることを心より祈っております。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

大切にされていると実感できる経験を

指導員 伊藤 恵子

マナの家で暮らす子どもたちは、虐待、ネグレクト、貧困など、自分自身では選ぶことができなかった厳しい環境をくぐり抜け、慣れ親しんだ地域や人と離れ、ホームで新たな生活を始めています。安全安心と感じられる場所で、一人ひとりをかけがえのない存在として受け止め、大切にされると実感できる経験、年齢相応な経験を積み、信頼関係や自己肯定感を取り戻していった欲しいと思っています。

自立援助ホームの支援目標は幾つかありますが、その中で、身体に、季節に、場面にあう、そして清潔な身だしなみを身につけることがあります。長く自分自身で決めることができなかつた子どもの中には、入寮して間もなく何かに解き放されたように洋服、お化粧、髪型等のお洒落に目覚める子どももいます。ありのままで良い、自分自身が好きなものを自分自身で選んで決めて良いという経験を保障

しながらも、少しずつ周囲や場面から受け入れられるようなお洒落や身だしなみを身につけられるよう支援しています。

その大きな応援を、戸田壽一・成郎育英財団様から頂く縁に恵まれました。2022年度は、コロナ禍ということもあり、食糧や衛生用品等を退寮生に配送する事業と収入が減った退寮生の家賃を補助する事業にご支援頂き、孤立と孤独防止になりました。

2023年度と2024年度は、子どもたちにスーツ一式を購入する事業にご支援頂きました。きちんとした正装の購入はもちろん重要ですが、それ以上に自分の身体にぴったりの洋服、靴、下着をオンラインではなく、実店舗で試着をしながら購入する経験を得ました。そのスーツを着て卒業式に出席した子どももいました。S M Lというサイズではなく、実際の靴のサイズを初めて知った子ども



もいました。身体が大きいために実店舗では恥ずかしく一人で購入することを避けてきた子どもと共に買い物に行かれたことは喜びとなりました。

このような経験の一つひとつが、子どもにとって将来の大きな自信に繋がることを感じさせられる素敵な時間となりました。マナの家は、大切にされていると子どもが実感できる経験をこれまで以上に作っていきたいと考えています。戸田壽一・成郎育英財団様のご支援に改めて感謝しています。

女性自立支援施設 望みの門学園

種をまこう



園長 田尻 隆

昨年、還暦を迎え老いを感じるようになりました。運転免許証の更新で5年前とは明らかに別人となってしまった顔写真と対面した時の驚愕感。県外出張に出かけるのに飛行場で財布を家に置いてきたことに気が付いた時の絶望感。この30年間でも最大級の「大ピンチずかん」でした。物忘れは日常茶飯事で簡単な言葉や人の名前が出てこない時の焦燥感。電車に乗る際、マスクを着けようとカバンの中を探すけれども一向に見つからない。なんとアゴにマスクをかけて探していること

に気が付いた時の呆然自失感。なんだか自分が自分でなくなるような驚き、焦り、悲しみ、恐怖を覚えます。

さて、今年の望みの門学園の年間標語に「涙とともに種をまく人は 喜びの歌と共に刈り入れる。」(詩編126編5節)が与えられました。望みの門学園の皆さんは、それぞれに悲しみや苦しみ、先の見えない不安の中から望みの門をくぐられました。もちろん私たちにも襲ってくる悲嘆にくれるようなこと、日々の心配事、思い煩いは枚挙にいとまがありません。けれどもそのような悲しみはいっしか終わるだけではなく、喜びに変わるのだと聖書は言います。

種が成長するには、まず芽を出し、根を張り、茎を伸ばして葉が茂がり、花を咲かせ実を結びます。喜びという結果の出ることが、ある一定の時間を要する「種」で示されているのです。しかし私たちはすぐに「結果」を求めてしまい、すぐに「答」が欲しくなります。「5分でわかる。たちまち効果が出る。」といったタイトルの本がよく売れていることから分かります。私たちは日々の生活において、余裕を失い「早く、早く」と常に何かにせかされているようです。種をしっかりと受け止める力が、じつくりと守り育もうとする力が失われているでしょう。

コロナ禍で「ネガティブ・ケイパビリティ



「答えのない事態に耐える力」という言葉が注目されました。問題をすぐに解決するのではなく、今すぐに解決できなくても、何とか持ちこたえていくうちに解決策が見つかり自分なりの答えに辿り着くことができる。そのことを信頼し、忍耐と希望をもって目の前の難しい問題に向き合っていく力が大切であるということです。

「喜び」それは今年の標語の中心となる言葉であり、誰にも、また何によっても奪い去ることはできません。種が芽を出し、実を結ぶまでには時間がかかります。失敗が続く時には泣きながら種を蒔くこともあるでしょう。けれどもきっと喜びの日、豊かな収穫の時間が来るのです。今回、木下勝世副理事長に

「種をまこう」という讃美歌を作って頂きました。私たちには必ず喜びの時間が来ることを信じ、希望のうちに1年をかけて賛美していきたいと思います。

養護老人ホーム 望みの門 楽生園

楽生園に異動して…

事務員 比護 菜都美

楽生園に異動して6月で4年目が始まるうとしています。4年前異動してすぐに機関誌の執筆で同じようなタイトルで執筆した記憶があります。少しでも成長したと感じていただけのような原稿になればと思います。

異動した当初は環境に慣れるのに必死、業務を覚えるのに必死、自分のことで精一杯で施設長、副施設長、課長のお二人にも現在も変わらすが当初からお手数おかけしていました。楽生園に異動して4年目に入る現在、環境にも業務にも少しずつ慣れ周りが見えるようになってきました。

現在では、外出行事では運転手を兼ねてドライブと一緒に外出させていただいたり、事務所へ「お姉さんちょっといい？」と悩み事や愚痴を相談して下さる利用者様もいます。お役に立っているかは分かりませんが、出来る限り私なりに行事に参加させていただいた

り、悩み事や相談事を傾聴したりと利用者様とコミュニケーションが取れたらいいなと思っています。

さて、私の業務の成長はどうなのか…。

4年で少しは成長出来たのでしょうか

。私は、まだ知識も

技術も不十分です。悩んだり困った時には、相談に乗って下さったり助けて下さる上司も先輩方も私にはいます。もう少しの時間頼らせていただきながら、知識も技術も吸収し、日々精進出来たらと思います。

最後に、1人の独りよがりでは施設が成り立たず、それぞれの職種があって、それぞれの役割があって施設は成り立っていると私は思います。利用者様と一緒に働く職員のことをそれぞれが考え助け合いながら、楽生園の職員の皆さんと一緒に頑張れたらと思います。



特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

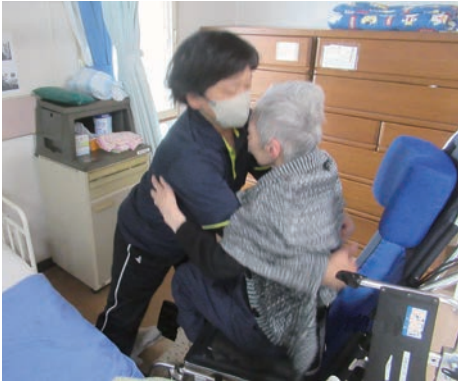
特別養護老人ホームの日常

介護員 三木 亜由美

以前は病院の療養病棟、老人保健施設で11年勤務していたのですが治療を安全に行う事が最優先される事で生活する場とはかけ離れており看護師の指示に沿って介助を行っていました。

もっと日常生活を送るためのお手伝いがしたいと思い、望みの門紫苑荘へ希望を出し勤めはじめましたが年齢も平均を上回っている事もありなかなか打ち解けるまで時間がかかりました。生活全般の介護を行うと言う事で仕事内容の幅も広がり今までより考え覚える事が多くわ

らない事だらけで不安でしたが看護員の方、介護員の先輩方から指導頂き少しずつ仕事内容と流れを理解してきました。



大変だったのが名札なしで制服の職員の方の名前を覚える事でした。そして毎日状況によって席が変わるためご利用者様の名前と顔を覚える事。フェイスシートの情報収集・ケアに必要な事を把握して各部門の方との連携と研修。行事・喫茶シオン・委員会・居室担当と盛りだくさんで目まぐるしい毎日です。防災訓練では避難経路を職員が走って応援に駆け付け、ベッドに寝ているご利用者様を起こして車椅子に乗って頂き、防災頭巾をかぶり煙を吸わないようタオルで口を覆って頂きスロープ前まで誘導したり発電機の作動が出来るよう手順確認・消火器の体験も行いました。夜勤では眠れないご利用者様を眠気が来るまで見守りしながら他のご利用者様の支援を行ったり毎回、利用者様が体調不良にならないか緊張しています。

ショートステイのご利用者についても初めてで利用準備に必要書類や持ち物の把握、介助をどこまで必要とされているか関わり方も毎回どきどきしながらでした。

特別養護老人ホームで違う事に戸惑いながら過ごし入職してあつという間に1年半、何とか現場で働いています。今では名前を呼んでくださったり、「ありがとね」と声をかけてくださるご利用者様もいる事で毎日励みになっています。これからもまだまだ分からない事が出てきたり支援方法について悩む事があると思いますが職員の方々とコミュニケーション

ションを取りながら一緒に考えて良い支援が出来るよう努力を重ねて行きたいと思っています。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

着任から二年

施設長 小嶋 友子

私は、法人に就職して以来20数年富津地区の事業所で働かせて頂いておりました。昨年4月より湊地区にある富士見の里に異動となり一年が経過しました。

振り返って見ると感染症が流行した年となっていました。4月の着任時には、新



型コロナウイルス感染症、12月にはインフルエンザ、年が明けた2月には感染性胃腸炎が発生してしまいました。集団生活である為、施設内に持ち込まないように日頃から感染症予防対策を心掛けていましたが防ぎきれない状況となりました。この経験から、それぞれの感染症の対応について各職種で振り返りを行い改善すべき点や継続する内容を改めて確認する機会となりました。

また、開設から12年が経過し設備にも不具合が生じました。利用者サービスに不可欠な特殊浴槽（臥位式浴槽）が修理不可能な状況となり更新せざるを得ない状況となったり、タイミングを同じくして給湯器にもトラブルが発生する事態となり部品交換で問題解決出来たので安堵しました。

着任早々から様々な事が起こり、大丈夫だろうかと不安になることも多々ありました。「背負えない荷物は背負わせない」と言われたことを思い出し前向きに取り組もうと考えて行ってきました。

今年の干支は巳年です。蛇は脱皮を繰り返して再生・成長していきます。干支にちなんで施設としても良き所を継承しながら、新たな事に挑戦していきたいと考えています。ここ数年制限のある中で生活を余儀なくされてきました。高齢者施設である為、すぐにコロナ感染前の自由な状態に戻すことは難しいで

すが、少しずつ緩和出来るように努めて利用者様やご家族様に喜んで頂けるようなサービスを提供出来るよう取り組んでまいります。

老人サービス事業 望みの門サービスセンター 制度の話はさて置き

管理者 白鳥 尋子

2001年7月、利用者様2名から開始したデイサービス。出会いと別れを繰り返し24年目となりました。現在は一日40名近い皆様に利用して頂き、慌ただしい中にも沢山の笑がある日々を過ごして頂いております。

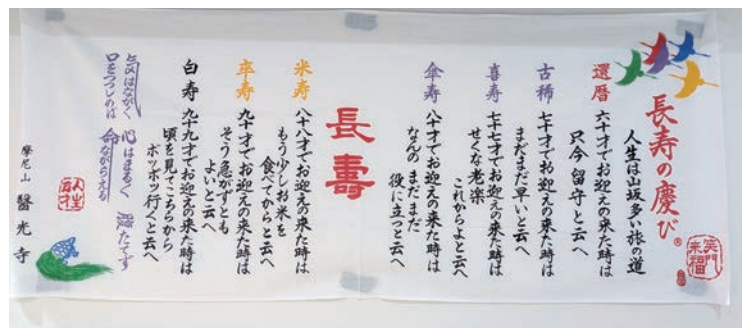
最高齢はもうすぐ101歳になられる方。杖を使って歩き、肌艶も良く、時折見せて下さる笑顔がとても素敵な男性の利用者様です。今の日本の平均寿命は男性81・09歳、女性87・14歳。世の中の発展に伴い年々伸びて行く寿命。デイサービスでは整髪の場に地元『醫光寺』様から頂いた『長寿の慶び』と書かれた手拭いを掲示しております。『人生は山坂多い旅の道』とはじまり、還暦『六十才でお迎えの来た時は只今留守と云え』続いて古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿とお言葉が続き白寿では『九十九才でお迎えの来た時は頃を見てこちらからボツボツ行くと云え』と。そして最後に『気はながく、心はまるく 腹たてず

口をつつしめば 命ながらえる』との戒めが掲げてあります。皆さんいかがですか？「私は長生きできない……笑」改めて読み心に刺さりました。

この仕事をしていると「最期まで自分の家に居たいねえ」との言葉をよく耳にします。当たり前のことのはずが『願い』となっているのは昔も今も多分これからも変わらず続くでしょう。

以前私はご家族様に「ご自宅での介護は大変ですよ」と声を掛けておりました。実際に自分がその立場を経験し本当の大変さを実感。わかってはいるかのような言葉がけをご家族様はどう聞いてくださっていたのだろうと今でも考えます。

私たちスタッフは利用者様・ご家族様の思い



や願いができる限り叶うよう・叶えられるよう『生きがい』の一助でありたいと思っています。

24年目がスタートしました。これから私たちにお手伝いさせてください。

居宅介護支援事業 望みの門在宅サービスセンター

マイライフノートを書いてみませんか？

管理者 立和名 康代

皆さん「マイライフノート」をご存じでしょうか、人生の最期を見据え、自分の想いを大切な人に伝えるためのツールです。イメージとしては高齢者や看取り状態の方々が使うもの、若い方には縁遠いものという印象があるかも知れません。しかし決して高齢者だけのものではありません。一度目を通して頂くと理解して頂けると思います。書くことで今まであんなに大切だと思っていたことがそれほど大切ではないことに気が付くこともあります。自分自身を見つめ直し、人生の優先順位を整理する助けになるのではないのでしょうか。

ノートには遺言だけでなく、今をどう生きていきたいか、どこで最期を迎えたいか等を記載する欄があり、本人の意思を尊重するために大いに役立ちます。それからネット銀行預金、電子マネー、オンラインで取引中の株式、



今は隠している内緒の財産等々についても詳細を記載する事で、関係者が容易に理解し、適切に対応できるようになります。離れて暮らしているお子さん達や遠方に住む兄弟とのトラブルがある場合でも活用することで、意向が尊重されるようになります。つまり本人の意思を無視することなく意見を出発点に解決策を探していくことが可能と考えます。

たとえ認知症になったとしても、自分自身の想いを伝えられる場合も多く本人の思いを推測することも可能です。ノートを通じて自分の考えや感謝の気持ち伝えることで、家族との絆が深まる可能性もあります。人生の状況や希望は変わることあるため、ノートは定期的に見直し更新してください。記載する中で不安要素が出てくれば専門家の助けを借

りる事もでき家族の問題が複雑な場合、弁護士やソーシャルワーカー等の専門家に相談し適切な解決策が見つかる事もあります。どの年齢の人にとっても活用方法を工夫することで自身を見つめ人生の優先順位を整理する助けになると思います。

私の担当する利用者様からマイライフノートを見せて頂いたことがあります。長い闘病生活を送っており、家族との関係も複雑でしたがノートには深い思いや悩みが綴られていました。その内容を読むことで、内なる声を理解し、本当に求めているサポートが何かを見つけることができより良いケアを提供することが出来たことがありました。皆さん日々忙しいと思いますが富津市役所や包括支援センター等にご用意がありますので是非手に取ってみてほしいです。

居宅老人介護 望みの門ホームヘルプサービス 新年度の「挨拶」春の訪れとともに

管理者 久保田 地香

急に暖かくなった今年の春、日差しも心地よく感じられるようになってきました。皆様におかれましては、お健やかに過ごしのことと存じます。日頃より、私たち望みの門ホームヘルプサービスをご利用いただき、また温



かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年度は、感染症対策を徹底しながら、利用者様の生活を支えるためにヘルパー一同尽力してまいりました。今年度も、利用者様一人ひとりに寄り添い、安心して在宅での生活を続けられるよう、きめ細やかな支援を心がけてまいります。また『より安全で、より温かい介護』を目標に、サービスの質の向上に努めてまいります。定期的な研修を通じて職員のスキルアップを図るとともに、法人内、地域の関係機関と連携を強化し、利用者様やご家族の皆様にとって頼れる存在となれるよう努力してまいります。

私たちの支援地域は自然豊かで公園や散歩路が多く、春は外出やお散歩を楽しむ絶好の機会です。お天気の良い日には日光を浴びることで心も身体もリフレッシュできます。ただ、季節の変わり目は体調を崩しやすい時期でもありますので、無理のない範囲で、適度

な運動や水分補給を心がけてください。

私たちヘルパーも訪問時には利用者様の体調管理に十分配慮しながら日々の生活がより快適になるよう支援してまいります。小さなことでも気になることがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

これからも、地域の皆様とのつながりを大切にしながら、安心して暮らせる在宅生活を支えてまいります。訪問介護の役割は、単に身体介護や生活支援を行う事だけではなく、利用者様の『その人らしい生活』を守ることだと考えております。

皆様の笑顔が私たちの励みです。今年度も、ヘルパー一同、誠心誠意努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

千葉中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 民生委員さんたちの出会い

相談支援員 田中 久美子

障害者本人が自分の居所を知られたくない、あるいは、障害者が地域で暮らすのは当たり前なこと、との考えから、開設時に近隣への挨拶もなく今に至っている障害者グループホーム（以下「GH」）は意外と多いのですが、令和7年度からはそういう状況が許されなくなります。各事業所は、利用者、利

用者家族、地域の関係者を含めた「地域連携推進会議」と呼ばれる合議体を作り、年に1回以上、各GHへの訪問およびそれを踏まえた会議を開くことが必須となります。

GHと地域が交流すること、事業の透明性を高め、虐待防止や障害者への理解促進につながる効果もある、とされています。

私たち障害者グループホーム等支援ワーカーは、これに先立ち、君津圏域4市の民生委員定例会にお邪魔して、GH制度と地域連携推進会議の説明を行い、「GHから声がかかったら是非会議に参加してください」と頭を下げました。

使命感に燃える篤志家のイメージは、のっけから崩れることとなります。「仕事と掛け持ちしていて、忙しいんだ」と冷やかな視



線を向ける方。スマホに首ったけの方。「また頼まれ事だ!」。しまいには、「あんたら何しに来た?」の声が。

これらを踏まえ、「皆さんの回りにはこんなにG Hがあって、G Hではこんなことをしています」という制度説明に重きを置くことにしましたが、「結局、私たちにお願ひに来てるんでしょ?」と見透かされてしまう場面もありました。

しかし、それだけ熱心に考えて下さっているということ。G Hに限らず障害福祉サービスの質問が活発に飛んだり、「G Hの見学会を開いてほしい」との要望が出た地区もありました。民生委員は高齢化が進み、なり手がおらず、空白地帯がどんどん増え、市の防災課や高齢者福祉課ばかりか、G Hからの依頼も増えていくことになります。「民生委員とも連携しよう」とは教科書によく出てくる文言ですが、民生委員さんの実状をもっと知っていきたいと思っています。

富津市富津地区地域包括支援センター 包括支援センターとは?

事務員 松浦 順子

「包括さん?」とよく電話があります。富津市は中学校区単位で地域包括支援センター



が天羽地区、大佐和地区、この富津地区に分かれています。

私は介護業界には無縁で働いていました。入職してから知らない事だらけでした。なのでよくわからないけど困っている、と連絡を貰うと大変共感します。はっきりと方針が決まらず誰に相談したらいいのかも判からず不安な方達も多いと思います。先ずはご相談ください。資格を持った玄人が対応致します! 包括職員は的確な指示・率先して動く社会福祉士を有するセンター長、介護のベテラン主任介護支援専門員(主任ケアマネ)、何でも相談したくなる知識豊富な優しい看護師達です。相談件数は年々増え続け、この調子では富津地区で高齢者が居られる家庭皆お知り合いになるのではないかと危惧する程です。相

談されても今は必要ない、その時が来たら又連絡をする、という方もいらっしゃいます。相談先を持つというのは、主治医を持つ事に似ています。目安でしょうか、快方に向けて手立てを知っておくだけでも安心するものです。私は包括本来の業務は出来ませんが、色々なお手伝いをしてサポートするのが自分の役目と思っています。それが利用者様に繋がっていると感じています。会計・防災関係等すべき事が沢山あり、毎日充実しています。包括職員一丸となってこれからも希望を持って邁進したいと思っています。

就労継続支援事業 望みの門 新生舎

新生舎の今



職業支援係長 大貫 砂登子

25年という月日を重ねる中で新生舎を取り巻く様々な環境は大きく変化しました。また、ご利用者様自身も家族構成が変化された方や、グループホームでの生活を始められた方、年齢に伴った新たなサービスの利用やご自身の選択によって新天地を選択された方など実に様々です。自身ものぞみ会で20数年の月日をご利用者様と共に過ごし、歳を重ね変化してきたことは言うまでもありません。

現在新生舎で取り組んでいる作業は製パ



ン・製菓作業、環境整備にリサイクル・製紙作業など多岐に渡ります。そして、ご利用者様それぞれが専門性を生かせる場所でその「力」を発揮し、ご自身の役割を担うため毎日仕事に前向きに取り組んでいます。しかしながら、長い月日の中で年齢を重ね働く事に対する意識の変化や日常生活の変化に対しての心のケア、健康面に配慮した支援体制のあり方は、従来通りの分化された作業・支援体制では個々のニーズに対応することは難しくなり、包括的かつ統合的なアプローチへと変化させることは必然であるといえます。

新生舎では全職員が今後の新生舎での就労支援のあり方やご利用者様が生き生きと日中活動を行える作業種についての意見を交わし合っています。年齢やその人が持つ特性、得意なことや苦手なことにフォーカスし、包括的に取り組める作業種は何か、個々の意志を

尊重した活動の提供は何か、もっと作業を細分化したらどうか等課題は山積みです。ただ一つ言えることは、ご利用者様が青年期であつても、壮年期であつたとしても、また、ご自身に大きな変化が訪れ携わる作業が変わつたとしても、共に働く支援員の気持ちや寄り添う姿勢を酌み取ることができるということです。たとえ沢山の事ができなかったとしてもご利用者様と支援員で作り出す活気に溢れた現場は働き続けたい場所となり、生き生き過ごしている様子は外から見てもここで働きたいという場所になると考えています。今後も共にトライ＆エラーを繰り返しながらご利用者様が安心して過ごせる場所、一人一人が生きがいを持って働く事のできる場所を模索し続けていきたいと思っています。

特定指定相談支援事業所 望みの門へテル

「念を残さず」



センター長 森 和浩

前回の機関紙では「生命」と向き合つてという内容で投稿いたしました、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の方は今年1月に逝去されました。亡くなる5日前の訪問では冗談を言えるくらい元気な姿であつたものが翌週には急変。一報を聞いてすぐに納得はできな

かったというのが本音です。あれだけ元気だったのに……。という思いが強いです。

昨年6月に難病が言い渡されて半年。こんなにも進行が速いのかと改めてこの半年の私たちの支援を考えさせられる出来事です。当初、本人が生活しているグループホームでは「難病でも対応できますよ」と快く支援していただいていたのですが、徐々に介護や医療が入り込み、移動や入浴、そして食事まで多くの介助を必要としていました。「まだ大丈夫ですよ」と担当者の方は言いますが経口摂取も困難な状態や機械入浴も狭い浴室の中で職員2名ではかなり無理が生じています。ALSに関わる資料を読んでも嚥下動作困難の次には胃ろう、呼吸困難、気管切開、そして個人によって症状の違いはありますがの先には空欄。これ以上通常のグループホームでの生活は本人の命に係わることも予想できます。グループホーム職員はまだ見てあげたいという思いも強く本人の状態に合わせた介護用具を検討しています。

担当市町村の方も進行の度合いから現状では難しいと判断し、何度も連絡を取り合い本人に見合った医療を中心とした生活の場を求め、医療対応型グループホームへの入居を提案することとなりました。12月中旬、入院先の病院から医療対応型グループホームに看護師同乗による介護タクシーでの

移送。入居後も何度か訪問し様子を確認しています。元々話好きで冗談が大好きだった彼はうつむいた様子を見せませんでした。看護師さんが言うには「窓を見つめて涙流してたんですよ」この言葉は訪問を終えた車の中で感情が揺さぶられるようで今でも涙してしまいます。最後のお別れには行けませんでした。彼が教えてくれたものは「自分らしい生き方と終わり方」だった様に思えます。今思えば最後の訪問の時に息を振り絞るように彼が言ってくれた「ありがとうございました」の言葉は、私たち相談員への感謝もあったと思います。がもう何か悟っていたのかと改めて考えさせられます。

この半年の彼との関わりはとて比重が高く、より丁寧で適切な対応が求められた稀なケースではありますが本人と相談員との関係性が問われるものでした。彼に対して本当に満足のいく支援を相談員として提供できたのだろうかと考えてしまいます。彼のかけにくれた最後の言葉から相談員として利用者の方々とどう向き合うべきなのかを学ばせてくれたように思います。日常の業務でもどれだけ本人と向き合い、どれだけ聞き取りどれだけ実現に向けて対応していくかがとても大切な様に思い、今年度もより多くの時間、利用者の方たちと関りをもち、念を残さない心の通った支援ができればと考えます。



障害者グループホームの施設長を務めさせて頂き1年が過ぎました。私から見たグレースホームは入所者・職員とも、いろいろな意味でとても元気です。そして、入所者の皆さんを臨機応変に受け止め対応していく職員がいるからこそ、皆が健康で安全に暮らすことが出来るのだと思います。世話人兼生活支援員としての日々の業務は、食事作りを含め掃除や洗濯などの家事仕事の他に、利用者の個々の観察・精神安定のためのコミュニケーション、生

活面での支援と必要な声掛け。幅広い仕事内容です。

令和6年度個人目標設定時、数名の職員が掲げた目標は「自身の健康管理」でした。

その通りで、「体が資本」であり健康は何よりも大事なことです。年齢

施設長 山口 寿美子

新年度を迎えて



共同生活援助事業 グレースホーム

も障がいの重さも一人一人違う入所者。ホーム内での採め事の対応、同じことを繰り返さない事もあり、決して何もない日はありません。そんな中、職員は嫌な顔一つせず入所者に向き合ってくださいます。健康で支援に繋がっているのだなあと思うと、「職員の健康を守らねば！」と勝手に考えてしまいます。と、言ってもお休みの調整しかできませんが……。

現在、グレースホーム利用者・職員とも、高齢化という目の前の課題があります。これは避けては通れないものであるからこそ、入所者の皆さん・支援者側も出来る事、出来ない事を一つ一つ受入れ毎日が安全に生活できるように心掛けていきたいと思っています。

今後、入所者の皆さんが笑顔になれる毎日と職員の皆さんの日々の健康が続くことを願っております。



児童養護施設 望みの門かずさの里

里の現状と今考えること

児童指導員 椎名 翔太

かずさの里の現状として、施設長不在の半年が過ぎ、日々子どもたちの暮らし、かずさの里を守るために進んできました。しかしながら、振り返ってみると先陣をゆく存在がおらず行き先も定まらず彷徨っている状態なのかもしれません。

かずさの里では、以前から人材確保・育成を早急の課題として掲げてきました。しかしながら、職員の定着が難しく、育成やケアまで行き届かずに日々疲弊しているのが現状です。その現状を



打破するために……1点目は子どものみならず、職員を守るためにも安心・安全であることが必要だと思います。明るく厳しく楽しい職場を目指すために「かずさの里勤務ルール・マナー」を策定しました。職業倫理感や仕事への姿勢など暗黙の了解から脱却し、共通認識として明確に提示するために明文化しています。

2点目は働きたくなる施設環境のためハード面のケアが必要不可欠と思います。先日習志野市に新設される児童養護施設を見学する機会がありました。その中で新しい建物だからではなく、働きたくなる施設環境や設備、暮らしが豊かになる環境や設備を重要視すべきであると感じました。今の施設環境が直結して職員の労働環境であり、子どもたちの生活環境であることを忘れてはならないのです。老朽化した施設の改修が課題であると感じます。

3点目は建設的意見交換のできる場であることです。とある研修会の中で、大きなトラブルに対応するとき若手職員は自責感にとらわれやすく、ベテラン職員は子どものせいにしがちな傾向があるとの発言を思い出します。責任の所在よりもこれからどうするか見通しを持てるかが重要です。建設的意見を職員同士で交換できているか、批評批判の負のスパイラルに陥っていないかを改めて省みる

べきと考えます。

子どもたちを受け入れる施設であるのならば、職員も受け入れる体勢、姿勢をもつべきだと思います。職員同士が志気を高め、活気ある職場風土を目指して。

乳児院 望みの門方舟乳児園

私と乳児園



児童指導員 小柴 涼夏

乳児園で仕事するようになり、はじめは月齢に対しての発達や接し方等、ほとんど知識がなく、日々子どもたちと過ごす中で、関わりの難しさを感じる事が多くありました。その都度、先輩方にアドバイスをもらいながら関わることで、少しずつ子どもに合った対応ができるようになってきました。また、勤続2年を経過し、児童指導員として、宿直勤務も始まりました。一人で行う業務や慣れない事が多く、緊張と不安でいっぱいでしたが、周りからのサポートを沢山受け、今では自信を持って行えるようになってきました。子どもたちの成長は早く、昨日でできなかったことが、今日ではできるようになったりと嬉しい瞬間を近くで見ることが出来ます。ですが、時には難しい場面に直面することもあります。日々職員同士で情報共有し、子どもたちの健



康状態や一人ひとりへの関わり方を考えていかなければなりません。個性の違いだったり、子ども同士の相性だったり沢山の課題があり、子どもたちから学ぶことも多くあります。一つ一つ丁寧に向き合いながら、子どもたちと過ごしていきたいと思っています。

そして、もう一つ自分の中で保育士資格を取得するという目標があります。小学生の頃から年下の小さな子供たちの世話をするのが好きでした。仕事しながら勉強するという両立はとても難しく、思うようにできず嫌になることもありましたが、職場のサポートも沢山あり、4月には国家試験の受験を控えています。資格取得ができるように最後まで悔いの残らないように取り組んでいきたいです。これからも先輩方に教えていただきたいながら、子どもたちの心の栄養となれる保育を実践していきたいと思っています。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園 支援の取り組み

児童指導員 佐藤 美優

2022年に児童心理治療施設望みの門木下記念学園に入職し3年が経過しました。子どもの暴言暴力を受け、心身共にダメージを受けることが度々あり、頭を抱えることが頻繁にありました。多くの壁にぶち当たり躓きましたが、多くの方にサポートして頂き、今日まで子どもたちと必死に向き合うことができています。

現在、子どもたちに気持ちよく生活してもらうために生活環境を整えることに力を入れています。温度調節が苦手な子どもには季節に合った服装を押しつけることなく声をかけています。こだわりが非常に強く、決まった服しか着用しない子どももいますが、一緒に服を選ぶなど工夫をしています。一人ひとり特性や強みが異なるため、個々にあった声かけや支援を心がけています。

また、おそうじカレンダーを作成しユニット内に貼り出し可視化することで職員や子どもたちの掃



除の意識付けや、いつどこを掃除する等の見通し不安の解消に繋がるようにしています。子どもたちが積極的に掃除を手伝ってくれることが度々あり、褒めるポイントの一つになっていると感じると共に、職員だけでなく子どもと一緒に生活環境を整え、ユニットを作り上げていると実感しとても嬉しく思います。様々な環境で育ってきた子どもたちに、今自分が生活している場所は安心安全で清潔でありこれが当たり前のことである、と感じてもらいたいと思っています。そのため一体何ができるのか、何が子どもたちにとって最善の利益になるのかを考え、その考えを実現できるよう日々精進しています。

毎日、刺激的なできごとがあります。その度に、多くの学びや経験を得ていると感じます。自分の知識不足や経験不足で落ち込むこともありますが、これからも子どもたちの心に寄り添う支援を心がけていきたいです。

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家 「児童家庭支援センターってどんなところ？」

センター長 井本 義樹

皆さんは児童家庭支援センターって聞いてどんな場所を思い浮かべるのでしょうか？子ども達が遊びまわられるような遊具のたくさんある、何となく保育所や幼稚園、児童館

のような場所を思い浮かべますか？それとも役所のような無機質な机が並んでいる場所でしょうか？児童家庭だから『こどものいる家庭』への『支援サービス』を行っている場所？じゃ、そのサービスって何？こどもの面倒を見てくれるの？それとも預かってくれるの？いったい何を支援してくれるのかわかりづらくはありませんか？

そんな『児童家庭支援センター』についてこの場を借りて説明させていただきたいと思っています。

『児童家庭支援センター』とは1997年（平成9年）の児童福祉法改正によって新たに制度化された児童福祉に関する地域相談機関です。（中略）

現在多くの児童家庭支援センターでは、児童虐待の発生予防や親子関係の再構築支援（家庭支援）、心のダメージの回復を目指した専門的ケアを実施しており、合わせて



家族全体が抱える問題とその急激な変化に寄り添い続ける伴走型支援や一人一人の成長に合わせた息の長いアフターケア（自立支援）を実践しています。

その他、実際には社会的養護施設と地域をつなぐソーシャルワーク拠点として、子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用調整を行ったり、市町村の実施する乳幼児健診事業に出向きその運営を支援したり、要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）の機能強化や児童虐待防止に関する研修に協力したり等々各々のセンターが様々な地域ニーズに応じ多彩な地域支援事業を展開しています（全国児童家庭支援センター協議会HPより抜粋）

児童家庭センターは全国に172カ所以上、千葉県でも千葉市を含め19カ所、富津市を含めた近隣4市すべてにある状態です。それぞれのセンターで特徴のある支援体制を展開していますので、利用者の方のニーズに合った支援を相互協力しながら行っています。

望みの門ピーターパンの家では、ショートステイや預かり等はまだ行っていませんが、大人は相談、こどもにはプレイセラピー、子育て講座を実施しており、地域の関係機関とともに『こどもも大人も元気になる場所』を目指しています。これからよろしく願います。

編集後記

世界中が仰天したホワイトハウスでの大ゲンカ。ゼレンスキーさんよくぞ言った！もつと下手に出て穏やかに済ませばよかったのにとの声もあります。フランス、英国、そして日本の代表がこぞってトランプ詣でをし、嘘くさい作り笑いの映像でアメリカとの親密さに安堵する自分に何んだか違和感があったところです。体形も発言もマッチョな大統領と副大統領の二人がかりの恫喝にじっと耐えつつ一歩も引かない小国のリーダーの姿に畏敬の念すら覚えます。一方、大国風を吹かせ「あなたの国を救おうとしている米国にもっと感謝しなさい」とのあからさまなマウンティング。上から目線で相手を見下す振る舞い。アメリカの新しいリーダーの姿にめまいすら覚えます。

この4月、新たに望みの門の働きに加わった皆さん。望みの門の創立の精神は理事長が巻頭言で綴られた通り「愛をもって人に仕える」です。私たちは望みの門の幼子、若者、障害をお持ちの方、女性、高齢の方、そして地域の皆様に愛をもって仕えていくことを使命としています。どうかこの創立の精神を心に刻み、これから一緒に望みの門の仲間としての日々を過ごしてまいりましょう。